

La Harmonio

N-ro 250

Tutlanda Organo de Rondo Harmonia
Eldonejo : Rondo Harmonia

<< 目次 >>

☆ 2023~2025 年 RH 組織委員選挙結果		2 ページ
☆ 紙芝居『メイコ』について	野原エミ	5 ページ
☆ 関東 RH 同窓会	小山 潤	6 ページ
☆ RAPORTO EL TOJONAKA	TANAKA Akira	7 ページ
☆ 仙台で14年ぶりに入門講習会を開催	今泉久典	8 ページ
☆ 語順について	竹森浩俊	10 ページ
☆ 2023年トリノ世界大会 ~出会いとハプニングと~		
	田渕八州雄	13 ページ
☆ 世界エスペラント大会に参加して	泉 従道	20 ページ
☆ エスペラントの冠詞について	亭島吉秀	22 ページ
☆ エスペラントと私	東野正明	24 ページ
☆ 会員の訃報、2023 年のイベント、図書情報、2024 年のイベント		

第 71 回関西エスペラント大会
での RH 主催のミニ大学
(2023 年 6 月 3 日)
10 ページ・28 ページ参照



2023～2025 年 R H 組織委員選挙結果

2023～2025 年 3 年間の組織委員の選挙を下記のとおり行い、森川和徳と笹沼一弘の 2 人が組織委員になりました。

本誌 249 号（2022 年 10 月発行）に立候補受付けの案内をお知らせしました。立候補の締切は 2023 年 1 月 31 日でした。その結果、2 人が組織委員選挙管理委員（後藤美和）に立候補の届けを行いました。

2023 年 2 月に投票資格者（2020～2022 年度 R H 会費納入者）に選挙公報（本号 3・4 頁にも掲載）と投票用紙を送りました。投票締切は 2 月 28 日でした。

組織委員選挙管理委員（後藤美和）が開封し、投票結果をまとめ、報告書を作成しました。その結果は次のとおりです。

- ・投票資格者： 94 人
- ・投票者： 72 人（投票率 77%）
- ・信任基準： 投票者数の過半数
- ・投票結果： 下記の報告書のとおり、2 人とも信任されました。

2023～2025 年度 ロンド・ハルモニーア組織委員選挙結果報告書			
R H 会員から寄せられた投票用紙を開票しました。 その結果を下記のとおり報告いたします。			
・投票総数	72		
・投票結果			
候補者名 (届出順)	信任	不信任	保留
森川 和徳	71	0	1
笹沼 一弘	67	0	5
2023 年 3 月 7 日			
R H 組織委員選挙管理委員 後藤美和			

2023年2月：RH組織委員立候補者の選挙公報 1

森川 和徳



1. 立候補者の自己紹介、経歴

氏名：もりかわ かずのり

年齢：67歳

性別：男

職業：無職

住所：京都府乙訓郡大山崎町

入会年：1974年

活動歴：現組織委員、La Harmonio 編集担当、財務担当

メールアドレス：kz_morikawa@yahoo.co.jp

2. 現在のRH活動およびエスペラント運動についての意見

「エスペラント」が言語であることさえもあまり知られていないので、インターネットなどを通じた継続的な広報活動が重要です。

インターネットによりエスペラントの情報を容易に入手できるようになったため、エスペラント団体に入会するエスペラント学習者が少なくなっています。

RH会員のほとんどの方々には50歳～70歳代ですが、日本のエスペラント界ではまだ働き手の世代です。各地のエスペラントの活動に参加できれば、日本のエスペラント運動を活性化できます。

3. 2023～2025年度、どのような活動を目指すのか

個人としては、RH、京都エスペラント会、日本エスペラント協会（JEI）で活動を進めていきます。

La Harmonio は年1回発行しますので、皆様のご寄稿をお待ちしています。

2023年2月：RH組織委員立候補者の選挙公報2

笹沼 一弘



1. 立候補者の自己紹介、経歴

氏名： ささぬま かずひろ

年齢： 58歳

性別： 男

職業： 会社員

住所： 滋賀県大津市

入会年： 1983年

活動歴：

京都の学生ロンドで活動後、社会人になってからは関西市民の活動に参画。関西書記局会議メンバー・組織委員等を務める。

近年は、京都エスペラント会、日本エスペラント協会においても積極的に活動を行っている。

メールアドレス： ssnmkzhr@gmail.com

2. 現在のRH活動およびエスペラント運動についての意見

ここ数年、エスペラントを取り巻く環境は大きく変わってきました。自動翻訳の発達により英語万能主義がやや陰りを見せはじめる一方、エスペラントの学習でもネットの割合が多くなりつつあります。こうした動きの中でエスペラントにより注目してもらうには、一般社会に対し、エスペラントを使うとどんなにいいことがあるか、楽しいことがあるか、あるいは、現在の言語状況についてどんな問題点があるか、などを発信していくことが重要と考えます。

3. 2023～2025年度、どのような活動を目指すのか

引き続き、日本・世界の各種団体の活動に積極的に参加し、その盛り上げにできるだけ貢献していくことによって、エスペラント界自体の活性化を図りたいと思います。

"MEIKO, mia patrino atombombita" bildrakonto(紙芝居) Sur Jutubo: 紙芝居『メイコ』について

野原(栗原)エミ (広島県廿日市)

1945年8月6日、わたしの母、明子は19歳、学徒動員で働いていた広島市郊外のマツダの工場で被爆しました。

その翌日から一週間、現在の広島大学の校庭で「南方特別留学生」(ブルネイ、インドネシア、マレーシアからの官費留学生)の方たちとともに野宿生活をしました。自身も被爆して怪我をおって大変な状態なのに、彼等は明子を励ましてくれ、共に助け合って過ごしました。その時の心通う交流は、いまでも母の宝物であり、新聞やテレビ、インターネットでも紹介されています。

野原は数年前、そんな母の被爆体験をエスぺラントの紙芝居にしましたが、今回、河元寛視さんの助力を得てエスぺラント文を改稿。信國裕さんに動画を編集していただき、2023年3月17日にYouTubeで公開することができました。絵と語りも野原で、全編字幕入りです。

URL : <https://youtu.be/fgtv2WsORNg>

(「栗原明子」、もしくは "bildrakonto" でも検索できます)

ぜひ多くのエスぺランティストに観ていただき、ご意見ご感想をお聞かせ願えればと思います。



関東RH同窓会

小山 潤（神奈川県相模原市）

2023年5月13日（土）に丸の内の中華料理店で関東RH同窓会を行いました。

関東RHの同窓会は2010年頃から始めておりますが、今回はコロナ禍で集まりを控えていたこともあり、4年ぶり5回目の開催となりました。

今回の出席者は11名ありましたが、40年ぶりにお会いする方も2名おられ、旧交を温めることができました。皆さん1970年代後半から1980年代前半に東京学生ロンド、関東市民ロンドで活動された方々であり、その頃の活動の話や現在の状況などを話して楽しい時間を過ごすことができました。



集合写真

RAPORTO EL TOJONAKA

TANAKA Akira (Tojonaka, Oosaka)

Saluton, mi raportas pri lastatempa afero el Tojonaka.

Unue mi esprimas koran dankon al ĉiuj, kiuj klopodas por nia afero.

Antaŭ 5 jaroj, mi havis esperantan lernadon, kaj ĝi daŭris 2 jarojn. Sed, pro atako de kronviruso, ĝi finiĝis malsukcese.

Ĉijare, kronvirusa reguligo malfortiĝas, kaj samtempe oni povas fari ĉion kiel same antaŭe.

Finfine, mi decidis restarigi.

Ekde junio, mi denove komencis esperantan lernadon (ne kurso sed lernado). Membroj estas 4 inkluzive min. Ejo estas Centro por sano Tamai. (Ĝi estas unu el kelkaj centroj kiujn posedas “Oosaka kooperativo por kuraca prizorgo kaj flegado”, kaj ĝi troviĝas apud Stacio Tojonaka de Linio Hankjuu.)

Gvidiloj estas NKL, teksto kiun mi faras, kaj aliaj filmetoj kiujn oni povas rigardi en Jutubo. Kaj mi gvidas kiel eble plej uzante “rekta metodo”n.

Do, kiel kolekti membrojn? Ĉiuj membroj kaj mi apartenas al la supre dirita organizo, tial per Informilo kaj per vorto de buŝo, nefarante publikan informadon, tio povas esti atingita.

Do, ĝis la revido!



仙台で14年ぶりに入門講習会を開催

今泉 久典（仙台市）

仙台エスペラント会 (SES) では、今年 6 月に仙台市内で 14 年ぶりに入門講習会を開催し、私が初めて講師を務めました。その経緯等をご報告します。

SES では、2009 年まで後藤斉会長（東北大学名誉教授）が講師となり、毎年入門講習会を開催してきましたが、2010 年は申込者がなかったため開催されませんでした。翌 2011 年に東日本大震災が発生した影響や、後藤会長が日本エスペラント運動人名事典の編纂や 2015 年に仙台市で開催された第 102 回日本エスペラント大会の実行委員長として多忙を極めたことなどの事情により入門講習会が開催されない期間が続いてきました。

2020 年に塩竈市で第 61 回東北エスペラント大会が開催されたことを契機にして、同市内で SES 会員の高田彩さんが主宰するエスペラント名のアート団体「Birdo flugas」で 2021 年 4 月から月 1 回の初級エスペラント講座が開講され、後藤会長が講師を務めています。そこで仙台市内でも入門講習会を開催しようということになり、言い出しっぺの私が講師を務めることになりました。

講習会は、6 月 1 日から 6 月 29 日まで毎週木曜日の 17 時 30 分から 19 時の日程（全 5 回）で、仙台市市民活動サポートセンターの研修室で開催し、3 人が受講しました。受講料は教材費込で 2,000 円、教材は阪直さんの「20 のポイントで学ぶ国際語エスペラント入門」にしました。最近の入門講習会では JEI の「ドリル式エスペラント入門」が使われることが多いと思いますが、5 回の講習会日程でとりあえず全体を概括しようという趣旨で「20 のポイント」を使ってみることにしました。



正直、入門者向けにはやや難しい内容も含まれていますが、適当に端折りながら何とか全体を終えることができました。

宣伝チラシでの「宮沢賢治も学んだエスペラント」というキャッチに惹かれて受講したというある受講生は、テキストの例文として取り上げられているエスペラントの詩について「思わず声に出して読みたくなるような響きで、豊かな表現があることに驚いた。」という感想を述べていました。入門講習会終了後、この方を含む学習継続希望者を主な対象として、7月から毎月原則第4木曜日に「木曜エスペラント会」という勉強会を行なっています。都合の良い時にどなたでも自由に参加でき(会場費として200円徴収)、CD教材等を使いながら、やさしい会話やエスペラントの歌などで楽しくエスペラントを学んでいこうというものです。これからも地道に続けていければと思っています。

(終)



受講生の皆さんと著者（右から2人目）

語順について

竹森 浩俊（奈良市）

本稿は、関西エスペラント連盟主催の第71回関西エスペラント大会の分科会、Universitateto（2023年6月3日）において、エスペラントで講演した“VORTORDO”の日本語版の概略である。

1. 初めに

今回考察する語順(vortordo)^{注1}は、他動詞(transitiva verbo)を有する節(propozicio)レベルの3要素、主語(subjekto)・目的語(objekto)・動詞(verbo)の語順と、句(sintagmo)のレベルの基本的な語順、名詞(substantivo)と形容詞(adjektivo)の語順、接詞(rolvorteto)と名詞の語順について考察する。

2. 節における語順^{注2}

他動詞を有する文章において、主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O) の3要素の語順について、世界の言語について考察すると、SVO と SOV タイプの言語が最も多く、3番目に VSO が多い。語順が固定されていない言語も相当数ある。

SOV タイプは世界中に分布しており、中国を除くアジアとニューギニアで多く、東南アジア、中近東の一部に分布している。

SVO タイプはサハラ以南のアフリカに広く分布しており、中国から東南アジアまでのアジア、西太平洋、そしてヨーロッパに分布している。

3. 名詞と形容詞^{注3}

句レベルでの語順で、名詞 (S) と形容詞 (A) の語順は、SA (名詞の後に形容詞を配置する) タイプか AS (名詞の前に形容詞を配置する) タイプに分類できる。

SA タイプの言語は AS タイプよりもはるかに多い。

AS タイプの言語は世界に広く分布している。

SA タイプ言語が分布している地域は赤道を中心とした地域と中近東とヨーロッパである。

4. 後置詞(postpozicio)と前置詞(prepozicio)注⁴

接詞は前置詞と後置詞の総称で、接詞が関係する名詞の前に配置される場合、その接詞は前置詞と呼ばれる。逆に接詞が関係する名詞の後に配置される場合、接詞は後置詞と呼ばれる。

前置詞を有する言語と後置詞を有する言語の間に数値的には大きな差はない。

前置詞は SVO タイプのような動詞が目的語の前に置かれる言語でよく見られる。

後置詞は SOV タイプのように、目的語が動詞の前に置かれる言語でよく見られる。

5. 固定された語順、自由な語順について注⁵

節における語順について考察すると、語順が固定されている言語として英語が挙げられる。これに対して、ウクライナ語や日本語などは語順は比較的自由である、前者が語順によって主語と目的語の区別しているのに対して、後者の言語は、主語と目的語の区別を語順以外の手法で行っている。そのため語順の自由度に違いが生じている。

6. 結論注⁶

他動詞の文章の中の主語・目的語・動詞のような節レベルの要素、そして句のレベルの基本的な語順、名詞と形容詞の語順、接詞と名詞の語順について、世界の言語の数と分布を考察した。

固定された語順に厳密に従う厳格な言語とそして比較的語順が自由な言語があり、その理由を考察した。

今回の考察を通じて、著者は言語の多様性は素晴らしく、非常に刺激的であると感じた。

言語の多様性にもかかわらず、他のさまざまな言語を自分の母語と同様に理解できる。

注 1 : https://en.wikipedia.org/wiki/Word_order

注 2 : <https://wals.info/feature/81A#2/18.0/153.1>

注 3 : <https://wals.info/feature/87A#2/18.0/152.8>

注 4 : <https://wals.info/feature/85A#2/16.3/153.1>

注5：第71回関西エスペラント大会の分科会、Universitateto において講演した“VORTORDO”より下記表5参照。

Tabelo.5 Ekzemploj en vortordoj rigida kaj libera

Lingvo	Ekzemplo	rigida/libera	Esperanto
angla	Hanako ate fish. Fish ate Hanako.	rigida	Hanako manĝis fiŝon. Fiŝo manĝis Hanakon.
ukraina	Ханакo їла рибу. Рибу їла Ханакo.	libera	Hanako manĝis fiŝon. Fiŝon manĝis Hanako.
japana	花子が魚を食べた。 花子が食べた魚を。	libera	Hanako fiŝon manĝis. Hanako manĝis fiŝon.
korea	개는 고양이를 사랑한다. gaeneun goyang-ileul salang 고양이는 개를 사랑한다. goyang-ineun gaeleul salang	libera	hundo katon amas. kato hundon amas.

15

注6：第71回関西エスペラント大会の分科会、Universitateto において講演した“VORTORDO”より下記表7参照。

出典データは <https://wals.info/feature>

Tabelo.7 Vortordoj en lingvoj

Lingvo	S,V,O	SA/AS	Pre/Po	Lingvo	S,V,O	SA/AS	Pre/Po
angla	SVO	AS	Pre	hungara	-	AS	Po
araba	VSO	SA	Pre	indonezia	SVO	SA	Pre
ĉina	SVO	AS	-	irlanda	VSO	SA	Pre
filipina	VSO	-	-	japana	SOV	AS	Po
franca	SVO	SA	Pre	korea	SOV	AS	Po
germana	-	AS	Pre	mongola	SOV	-	-
havaja	VSO	SA	Pre	nederlanda	-	AS	Pre
hinda	SOV	AS	Po	svahila	SVO	SA	Pre
hispana	SVO	SA	Pre	ukraina	SVO	AS	Pre

S,V,O の列の S=Subjekto, V=Verbo, O=Objekto
 SA/AS の列の S=Substantivo, A=Adjektivo
 Pre/Po の列の Pre=Prepozicio, Po=Postpozicio

2023年トリノ世界大会 ～出会いとハプニングと～

田渕 八州雄（兵庫県明石市）

2023年7月28日から8月8日迄イタリア・トリノの第108回世界エスペラント大会に参加した。ドイツ・ミュンヘンでは、飛行機便の待ち時間を利用して地元のエスペラントとの出会いを楽しんだ。

今年の開催地のトリノはイタリアの北部に位置し北にはアルプス山脈を配し、北東にはスイス、北西にはフランスがある。

飛行機便は関西空港～台北～ミュンヘン～トリノの道のりであった。2019年フィンランドの世界大会で行動を共にした名古屋の友人の水谷良典さんの誘いを受けて同じ飛行機便を確保した。同行二人の旅はとて心強いものであった。いいえ！二人＋神様＝同行三人の旅だ！

[1] トリノに着くまでのハプニング

7月28日(金)関西空港で水谷さんと出会う。関空から台北～ミュンヘンまでのフライトは順調に進んだ。“*Sed problemo akompanas vojaĝon.*”午後6時発予定のミュンヘン～トリノのフライトがキャンセルになった。サービスセンターで午後10時半まで次のフライトを待った。長蛇の列で時間切れ！翌日午前5時から10時半まで並んで待った。やっと午後2時45分発の便に乗れることになった。

[2] 大会の概要等

コロナ禍のせいで3年間現地開催ができなかったが、久しぶりの対面参加でエスペランティストの表情が輝いて見えた。概要は以下のとおり。

- ① 期日—2023年7月29日（土）から8月5日（土）
- ② 会場—トリノ工科大学
- ③ 参加者—70ヶ国から約1,300名
- ④ プログラムは多彩
- ⑤ 大会会場での雰囲気—コロナがあけて喜び満面、再会を楽しんでいた。新たな人との出会いがあった。

[3] 8月1日(火)

Faka Forumo での *raporto* 「各部門の報告・アピール」をする。宗教部門、医者、鉄道員、科学者等の約15の部門の活動報告・アピールがあ

った。私は EPA (エスペラント普及会、Esperanto-Populariga Asocio) の代表として宗教部門の一つとして大本の活動 2 点を報告した。

- ① 百年前の 1923 年大本の出口王仁三郎師はエスペラントを大本に導入した。目的はエスペラントと大本の教えをエスペラントを通して広めること。そうすることによって世界の平和を目指したのである。その百周年を祝う行事が亀岡の大本本部で行わる。メインの行事はエスペラントによる歌祭である。5 百首を越える献詠歌が集まっている。9 月 17 日には平和を願う祈りを込めた歌が朗詠される。現地亀岡に来れない方も Zoom での参加は可能である。希望者は私まで連絡して下さい。
- ② 大本の今の五代教主は、世界の 3 大宗教の発祥の地である、また平和の鍵を握っているエルサレムという聖地での歌祭を念願している。

[4] 8 月 1 日(火)～8 月 3 日(木)

Sylvain Lelarge さんの Paroliga Kurso に参加した。教材の引き出しが多くて教える立場にいる私にとって非常に参考になった。

[5] 8 月 3 日(木)

UEA の報道局 (ブラジルの *Ciro Gohes De Freitas* さん) のインタビューを受けた。質問の内容は①大本の最近の活動②日本のエスペラント活動についてであった。

①については、EPA の百周年記念行事～メイン行事であるエスペラント歌祭と *Margaret Zaleski Zamenhof* 博士による記念講演「エスペラントとザメンホフ一家」について紹介した。

②については、日本のエスペラント活動を支えている仲間の高齢化の問題、若者への啓蒙活動、教育の不足について語った。

この Intervjuo は UEA の番組で紹介されるとのことである。

[6] EPA 大本分科会 8 月 4 日(金)での司会

この世界大会参加の目的は 3 つあった。①は国際の夕べで阿波踊りを紹介すること(筆者は徳島出身で若い時から踊っている) ②は EPA の分科会で開会あいさつをすること ③コロナが明けて久しぶりにエスペランティストの友人に会うこと、また新しいアミーコに出会うことであった。

分科会の *Gastoj* = 二人の出口王仁三郎受賞の *Katalin Kovats* さん、*Mirelle Grosjean* さん、“Zamenhof Strato”の著作でおなじみの *Roman Dobrzynski* さん、denaska Esperantisto である *Karlo Rowe* さん、ローマ在住の大本信者の *Nikola Kolao* さん(日本の武道和良久の演武を披露)を紹

介した。

[7] RH の後輩との再会

Tuttaga Ekskurso E5 を終えて Kongresejo であるトリノ工科大学に帰った時に E8 Ekskurso から帰ってきた前述のイギリスの Karlo 夫妻と出会った。Karlo は彼らと同じ Ekskurso に行った日本人の方から「いい日本食レストランがあるので一緒に行きませんか？」と誘われたそうである。「それで田渕さん貴方もご一緒しませんか？」と Karlo に誘われた。ということでお供することになった。

和食＝お寿司等おいしく頂きながら話をしていたら、その日本の方はなんと RH の後輩の泉従道さんであったのだ。お名前を聞いてはいたが実際に会うのは初めてだ（と思っていた）。私の UK の debuto が 1977 年の Islanda UK でその後フランスに飛んでポワチエ市での IJK に参加したと紹介したら、なんと、その泉さんは「IJK で浴衣姿で阿波踊りを踊った日本の青年に会って話したことがある。」と話した。つまり、その阿波踊りの青年は私だったのだ。何と 46 年ぶりの再会だ。話が進み和食もビールもおいしくいただいた。Kia ĝojo! Kia renkontiĝo!



右から 2 人目が筆者、3 人目が泉従道さん

[8] 8 月 4 日(金)

Pola Retradio の Barbara Pietrzak さんから Intervjuo を受けた。EPA の百周年記念行事の歌祭を中心に話した。（詳細は 8 月 10 日放送分を参照下さい!）

[9] 8月4日(金)午後8時～9時半

Internacia Arta Vespero(国際芸術の夕べ)に出演!

この番組は閉会式の前夜に行われる。各国のアミーコイが自分達の国の踊り、歌等の文化を紹介するものである。私は過去に故郷の阿波踊りを青年大会やアジア大会等では紹介したことがあったが世界大会では経験がなかった。それ故オーディションも受けて合格し発表することになった。1,300名のエスペ란チストの前で踊り伝統的な日本の踊りを喜んで頂くことが出来て最高の気分であった。願わくは観客の方々にも踊る阿呆になっただいいて共に踊りたかった。



[10] ハプニングの中の幸せの隠し味

今回のトリノ～ミュンヘンの旅はハプニング続きであった。大きなのが2つある。(1)ミュンヘンからトリノへの飛行機がキャンセルされた(2)トリノ空港に私のトランクが着いていなかった。旅の最初にこのダブルパンチを食らった。では詳細・振り返りを書いておき次の海外での旅の教訓や備えにしておきたい。

(1)7月29日(土)ミュンヘン国際空港からトリノ空港発午後3時20分発の飛行機が遅れるという知らせが2度3度もたらされる。『6時半にこのフライトはキャンセルが決定した。については旅客者はサービスセンターに行かれたし。』という案内が入る。10時半まで長蛇の列で待つ。亀さんの歩みでなかなか前には進まない。水谷さんとエスペラントで話していたときに若い女性が話しかけてきた。ミュンヘン在住のエ

スペランチストの Theresa Ginard さんだ。同じフライトでトリノの世界大会に参加しようとしていたのだ。彼女は水谷さんと私のうろたえて困っている姿を見て私達の耳を傾けてくれる。どれほど慰められ元気づけられたことだろう。こんなエスペランチストのアミーコに会えて嬉しかった！ ➡これが幸せの隠し味の第一番目！ 10時半になりサービスセンターの営業時間終了。『明日の朝5時にサービスセンターが開くから明日又来て下さい！』とのことでルフトハンザ航空が泊まるホテルとタクシーを用意してくれた。

翌朝5時にサービスセンターに着く。もう既に20人くらいは待っていた。ずっと立って待っているのも忍耐力が必要だ。同じ境遇のお姉さん、おばさんと英語やフランス語で話をした。憤懣、怒り、やるせなさを互いにぶつけ合い、分ちあつたことで気が紛れた。お姉さんはイタリアの方はベローナ(シェイクスピアが書いた『ロミオとジュリエット』の舞台となった都市だ)の出身だ。おばさんはフランスの方で孫が3人いる。苦しくてやるせない時に思いを共有できる人がいた。これが幸せの隠し味の第二番目だ。5時間半待ったあかつきに私達の順番が来た。午後2時半のフライトが取れた。このお姉さんとおばさんに分かれを告げてチェックインをする。ミュンヘンからトリノへのフライト時間は約50分間。あとで聞いた話しでは、ミュンヘンからトリノへの空路にはアルプス山脈がある。激しい雷雨でキャンセルになることもよくあるとのことだ。

(2) 着かなかった私のトランク

キャンセルの後、やっとイタリア・トリノ空港についた。トランクが出てくるのを待った。トランクを受け取ってみんな出口から出ていった。mmm...変だ！私のトランクは出てこない?! どうしたんだ！長らく待ったが出てこない。仕方ないので **Baggage Claim** (荷物相談所) に行き **Claim tag** (トランクを預けたという証明書) を見せて英語で話した。色々話しているうちに係員が『あなたのトランクが別便で着くだろうから、着いたらあなたのホテルに明日か明後日には送ります。』ということだった。ホテルの住所を伝えてトリノ市の中心にあるホテルにバスに乗って向かった。

ホテルに着いたのが7月30日(日)の午後4時半頃。チェックインを済ませてタクシーで世界大会の会場であるトリノ工科大学に向かう。5時半過ぎに会場に到着。受付を済ませて大会本 (**Kongreslibro**) や **Ekskurso** (大会観光チケット) 等の書類をもらいたかったが既に閉まっていた。LKK(地元運営委員会)のメンバーは **Nacia Vespero** (イタリアの夕

べ)というイベントが開かれる Salono Zamenhof (= OGR) という会場に向かっていたのであろう。

路面電車、バス、地下鉄は着いたばかりなので1ヶ月前に習いたての会話“Vorrei andare a Politecnico di Torino. (トリノ工科大学に行きたいのですが)”や“Vorrei andare a albergo HOTEL STATUTO! (スタットホテルに行きたいのですが)”を使い又その住所を見せてたどりつくことが出来た。やはり最低限の現地の言葉、旅に役立つ会話は即席だが1ヶ月前から勉強しておいて良かった！

トリノ空港スタッフの言葉を信じて、毎日の大会プログラムをこなして、ホテルに着いた。『今日は、トランクが届いているだろうな!』と思ってホテルのスタッフに聞いてみてもまだ届いていないという返事だった。毎日そんな思いでホテルに着いたが結局届かずじまい。でもトランクがなくても背負うタイプのバッグでなんとかしのげたのは発見であった。最初の1, 2日目は下着をまめに洗い3日目には店を見つけて必要なものを買うことが出来た。ただし血圧降下剤は1週間分はバッグに入れていたが残りの1週間分はトランクに入れていた。でも数日薬を飲まなくても生きていける。大したことはない！

私の泊まった家族経営のホテルのオーナーはイタリア語しか話さない。毎日交替するスタッフもほとんど英語を話さない。4日目の朝にはナイジェリアから来たという若い女の子が英語を話した。もっと大きなホテルで泊まっていればスタッフが英語を話して私のトランクの件も親身になって協力してくれたのだろうか？夜ホテルに着いてスタッフと話していたら英語を話す若いベルギーの2人連れの女の子が私のトランクの話聞いてくれて慰めや励ましの言葉をかけてくれたのは嬉しかった。『苦しみの中にも永遠の望みあり如何に幸ある我が身ならずや』歌が心に浮かんできた。気持ちを前向きに持って行動できたのは神様の見守りのお蔭であると切に思った。気持ちの切り替えができた➡これが幸せの隠し味の第3番目！

「苦しむための苦しみではなく、悟るための苦しみだ。」ということばが思い浮かび、神様は何をこの体験から学べとお考えなのかと思いがら大会の日々を過ごした。

結局、トランクはトリノを発つ8月6日にトリノ空港のLost & FOUNDというところで見つかった。

幸せの隠し味というべきか。別の嬉しかった体験を書いておく。

嬉しかったこと第1弾！

大会3日目のことである。路面電車に乗ってホテルに帰ろうとした。

しかし間違っただけで違う駅に降りてしまった方向音痴の私！路面電車を降りてうろきょろと歩いていたときにイスに座って新聞を読んでいるご婦人を見かけた。思い切って訪ねてみた。“**Vorrei andare a albergo HOTEL STATUTO!** (スタットホテルに行きたいのですが)”を使い又その住所を見せた。最初は怪訝な表情をしていたが立ち上がってついてこいという合図をした。数分間ほど歩いた、メトロの駅に着いた。一緒に乗れと合図して4駅ほどメトロに乗って下車した。地上に出てから手であなたのホテルはあそこですと指さしてくれた。まさに私の泊まっている **Hotel Statuto** だ。ワ～！わざわざメトロに乗って4つの駅をすぎたところまで案内してくれたのだ。なんという親切。なんという優しさ。いっぺんにイタリア人が好きになった。「親切のありったけをつくされること」という生活信条があるが地理が不案内な旅の者にとってこれほどありがたいことはない。我が身を振り返って日本に戻ったら道に迷っている方に親切にご案内しようと思った。

嬉しかったこと第2弾！

大会会場から「国際芸術の夕べ」が開かれる300メートル先の会場に行かねばならぬ。しかし急に土砂降りになった。この時どうしようかなと思った時にトリノ工科大学の掃除をしている数人のスタッフを見かけた。またまた **Vorrei andare a OGR.** (OGR というのが国際芸術の夕べが行われる会場“**Salono Zamenhof**”のこと) と話かけたら掃除用のナイロン袋を取り出して3ヶ所穴をあけた。急造の雨合羽を作ってくれてこれを着ていけと提供してくれたのであった。またまたイタリア人の優しさに触れて感謝感激！

嬉しかったことの第3弾！

国際の夕べで阿波踊りを紹介する前にオーディションを受けて合格した。その内トランクもホテルに着くだろうと思っていたが、国際の夕べの前日になってもトランクが届かない！！どうしようと思っていたが、大本のファンで2019年のフィンランド世界大会でお友達になっていた植原映子さんが浴衣を持ってきておられることを聞いていた。それでお借りして着物姿で阿波踊りを紹介できた次第である。終わった翌日植原さんからは、「**Via danco estas tre, tre bona.** 日本を代表して踊りを紹介してくれて **Koran dankon!**」と書いた団扇もいただいた。

いろいろとあり過ぎた世界大会の旅だが、試練にも前向きに行動できたことは神様のお見守りの賜物と感じています。

Koregan dankon!

(終)

トリノでの世界エスペラント大会に参加して

いづみ よりみち
泉 従道（長野県上田市）

この夏、イタリアのトリノで開かれた世界エスペラント大会に娘の未来(みき)と参加した。彼女は小さいころに一時期エスペラントを聞かされていたが、今は全く憶えていない。行く途中で挨拶、自己紹介ができ、私は初心者ですと言えるように教えた。3年前に病院を定年退職し、障害者・高齢者施設の嘱託医を始め、依頼があればいつでも往診が必要なので、不在時の代理の先生をお願いするのに手間取った。最終的に参加を決めてから準備にあたふたした。ネット上で参加申し込みが出来るが、何度もメールの遣り取りを要した。飛行機の予約は娘に頼んで、やっと出発3週間前にチケットを確保できた。イタリアのガイドブックにはトリノの案内はなかった。半年前からラジオのイタリア語講座を聞いていたが、会話が出来るレベルではなく、旅の指さし会話帳イタリアを持参し重宝した。

トリノ到着は7月29日の午後となった。大会会場はトリノ工科大学だった。会場に着くと屋外の広場でエスペラント団体の宣伝ブースが多数あった。私は日本エスペラント協会の手伝いをする予定だったが、もうすでに終了直前であった。理事長の北川郁子さんに挨拶し、信州RHの後輩の山口眞一君の担当する仏教関係のブースを探した。そしてその晩は彼と夕食をともにした。トリノの町には古い石造りの数階建ての伝統的な趣の建物しかなく、近代的な様相のビルは皆無だった。ほとんどの飲食店には石畳の歩道にテラス席があった。本場のピザを堪能しながら旧交を温めた。彼は一足先に到着していたので、市内交通の乗り方を教わって、移動の不安が解消した。

7月30日の開会式では世界エスペラント協会会長が司会をしており、彼のクリアなエスペラントの発音は非常に聞きやすかった。またザメンホフの子孫の方の挨拶は印象的であった。今回は娘の初心者コースに付き合うことが主となった。初心者コースは直接法での参加型講義であった。世界大会といえども、初心者が少なからず参加していた。

7月31日には娘の分も取れた半日コースの遠足でマルティーニ酒造工場見学へバスで行った。最後に真っ赤なマルティーニのカクテルをテ

イスティングでき、暑い中での見学の後に爽快な気分になれた。

8月2日は終日遠足だった。私たちは遠方のマッジョーレ湖に浮かぶベッラ島にあるバロック建築の宮殿の中の美術品や植物園の見学をした。遠足後にお会いした英国からの参加者と一緒に夕食を取るようになった。奥様は日本人、旦那様は若いころに英国から大本へ派遣されたエスペランティストであった。そこに別の日本人も加わった。田渕八州雄さんでありRHの先輩であるという。彼と私が1977年にフランスのポアチエで行われた世界青年エスペラント大会に参加していたことが判明した。46年ぶりの再会であった。当時の信州RHの機関誌へ投稿した紀行文を探すと、浴衣姿で阿波踊りをした青年として書かれていた。

交通や飲食店はスマホで検索した。娘はグーグルマップだけでなくインスタグラムも使ってお店のメニューを検索し、入る前から何を食べるのか大方決められた。娘がミラノの観光をしたい、レオナルド・ダ・ヴィンチの最後の晩餐を観たいと言い出した。行くなら翌日しかなかったが、あつという間にスマホで列車の電子チケットを確保し、最後の晩餐の鑑賞を含めた市内観光の英語のツアーの予約を取ってしまった。

8月3日に急行列車でミラノへ向かった。地下鉄へ乗り換え、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院へどうにか辿り着けた。最後の晩餐は修道院の食堂に描かれた420x910cmもの巨大な壁画であった。薄暗く静かな空間で大作の荘厳さに深く打たれた。

以前も海外でスマホを活用したが、今回ほどスマホでの驚異的な情報収集力の高さ、活用性の大きさに驚いたことはなかった。今後は対話型AIで更に便利になるだろう。(終)



夕食前にテラス席で



宮殿の庭でバンケード

エスペ란トの冠詞について

亭島 吉秀 (大阪市)

学生時代にエスペ란トを学び始めて以来、約50年間、エスペ란トを読んだり、エスペ란トで書いたりしてきましたが、いまだによく理解できていないのが、冠詞です。その理由のひとつが、自分の知識不足にあることは自覚していますが、それ以外にも、冠詞というものが、冠詞が存在しない言語を母語としている人間には、はなはだ厄介なものであることも、その理由であると思っています。

まず、定冠詞について、考えてみたいと思います。

ザメンホフは、1887年の「第一書」において、次のように述べています。

La uzado de la artikolo estas tia sama, kiel en la aliaj lingvoj.

La personoj, por kiuj la uzado de la artikolo prezentas malfacilaĵon, povas **en la unua tempo** tute ĝin ne uzi. (pvz, kajero 1, p.37 太字は筆者)

(ちなみに、pvz とは、iam kompletigota plena verkaro de I.I. Zamenhof, ludokivito, kioto, 1973)

しかしながら、1888年の *Dua Libro* においては

La vorto "la" estas nomata "artikolo"; ĝi estas uzata tiam, kiam ni parolas pri objektoj konataj. Se iu ne komprenas bone la uzon de la artikolo, li povas tute ĝin ne uzi, ĉar ĝi estas oportuna sed ne necesa. (pvz, kajero 1, p.56)

(当時の表記では、artikolo は artikulo、tiam, kiam は tian, kian となっています)

Dua Libro では、「第一書」にあった、**en la unua tempo** という文言が、なくなっています。

1887年と翌年の1888年との間に、ザメンホフの考え方に変化があったと考えてよいのか？ *Dua Libro*の方が、ザメンホフの新しい考え方を、示しているのか？

第一書を発表した後に、冠詞に消極的な声が出て、ザメンホフの考え

方が、変わったのでしょうか。第一書は、1887年、当時ロシア領であったワルシャワにおいて、ロシア語で発表され、同年中に、ポーランド語、ドイツ語、フランス語、英語版が出版されました。このような事情で、母語に冠詞をもたない人々が、当初、読者の多数であったのではないかと考えられます。そのため、彼らになじみの少なかった冠詞というものに、否定的な反応があった可能性はありうる、と考えています。

冠詞のない言語として、ロシア語、中国語、韓国語、日本語、マレー語等があり、一方、冠詞のある言語としては、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語等が挙げられます。

母語に冠詞をもつ話し手の人口と、母語に冠詞をもたない話し手の人口を、単純に人口比だけで比較すれば、エスペラントには冠詞がなくても、差し支えがない、といえるかもしれません。もし、エスペラントから、冠詞をなくしてしまえば、何か重大な問題が生じるのでしょうか。

また、エスペラントには、不定冠詞が存在しませんが、このことによって、母語に不定冠詞をもっている人たちは、不定冠詞がないことに、不都合を感じていないのか、というテーマが、考えられます。すなわち、**Amiko venis.** という文は、彼らにとっては、違和感が感じられるのか、という点です。**Unu amiko venis.** と言わないと、気持ちが悪いと、感じているのかどうか。

定冠詞にしる、不定冠詞にしる、そのようなものを持たない話し手にとっては、厄介なものですので、第一書のように **en la unua tempo** あるいは、**Dua Libro** のように、**li povas tute ĝin ne uzi** という使用法が、今後、もっと一般的になると、エスペラントがより使いやすくなるのでは、と考えます。

エスペラントが、ヨーロッパ系の言語を基礎に考案された経緯から、冠詞というものが存在しているのですが、ヨーロッパ的な言語空間を超えて発展するためには、冠詞については、「おおらかな」使い方が望ましいのではないかと考えています。

(終)

エスペラントと私

とうの
東野 正明（兵庫県多可郡多可町）

私が「エスペラント」を知ったのは、いつの頃か定かではないが、高校時代には、伊東三郎『エスペラントの父ザメンホフ』を読んでいたようだ。

1969年1月15日、私の満20歳の成人式が故郷では行われている日にエスペラントを始めた記憶がある。学習書は、小坂狷二『エスペラント捷径』を使用した。大学生であったので、学習は進んだ。やがて、ParoladojやOriginala Verkaroなどを読むようになった。日本エスペラント学会に最初に入会したのもこの頃であった。

そのうちに、ロンドハルモニアの市民講習会のポスターを眼にして受講を申し込んだ。初級講習終了後、京都市民ロンドに入会し、後年京都を離れて故郷へ帰る1976年3月まで所属していた。

京都市民ロンドの例会は、市内の中心部のとある商店の事務室が使用された。名は市民ロンドではあったが、学生も私を含めて5人は在籍していたと記憶する。祇園祭の頃は、囃子の音が大きなバックグラウンドミュージックとなっていた。

短期間ではあったが、機関誌La KUR'を青焼きコピーで発行していた。La Harmonioは、ガリ版を使用した謄写刷りであった。発行時期には、事務局となっていた京都大学エスペラント研究会の雑然とした部室に印刷と製本を手伝いに行ったものだ。異なる大学の学生ロンドの中で結婚したカップルも数組いた。うち1組は今でも年賀状を交わしている。

時は、ベトナム反戦の季節であり、アメリカ公民権運動の指導者キング牧師が凶弾に倒れ、ワルシャワ条約軍のチェコ侵攻と続いた。

ザメンホフが主唱した homaranismo を考え直し、 interna ideo について、エスペランティストは真剣にその意義を考えなければならないとも思ったものだ。

大学内では、学費値上げ反対等の要求にとどまらず、医学部など理系の学部で端を発した闘争もあり、無期限バリケードストライキが全国の大学を席卷した。

70年安保闘争が権力側の勝利に終わって沈静化した後、無気力・無関心・無責任という三無主義が横行するようになったのは残念であった。闘争の目標が見えなくなったことに呼応する現象であると言われるが、確固たる信念を持たない若者には、課題が山積しているというべきであろう。

1970年だったか、ロンドハルモニアの夏季合宿に拙寺金蔵寺を使用したことがある。学生・市民合わせて20人～30人の参加であった。海拔400メートルの山岳寺院でクーラーは勿論、扇風機すらない時代であったが、快適であったと言われたものだ。

日本大会へも数回参加した。高槻での大会では、文化人類学者でエスペランティストの梅棹忠夫氏の講演を聴いたことがあった。後年視覚障害者となられた梅棹氏のごことはよく覚えている。

日本エスペラント運動史に名を残す盲目の詩人エロシェンコのごことは、既に知っていたが、日本ライトハウスの創設者である盲目のエスペランティスト岩橋武夫氏とその妹寿岳しづさんを知るずっと前のことであった。

大本教本部にはよく訪ねた。亀岡市天恩郷は、京都市から兵庫県多可郡の拙宅にカブで帰省する道の途中にあり、昼食時にはよく立ち寄り、エスペラント関係の図書も閲覧した。何時だったか、青年部のエスペラント劇の実演も見たことがある。出口京太郎『エスペラント国周遊記』は既に読んでいた。教祖出口王仁三郎を知ったのは、高橋和巳の『邪宗門』ではなく、エスペラント関係からであったと記憶する。「皇道大本」を名乗ながらも弾圧された事件を知って、戦前のウルトラナショナリズムの非道さに怒りを覚えたものだ。

大学卒業論文は、『J.A.コメンスキーの言語教育論 母国語教育理念の発生』であり、修士論文は、『F.シュナイダーにおける国際教育学の構想』であった。主任教授は、教育運動としてのエスペラントをまとめてもいいと言われたが、結局は、二人の教育学者の個人研究に終わった。もし、教授のすすめに応じていたら、私のその後の人生も違っていたかも知れないと思う。

比較教育学という専門分野の性格もあり、社会科教育法のほか、国語科教育法や英語科教育法も単位を取得した。文学部に言語学の講義も受けに行った。私は、数カ国語に手を付けた言語マニアであり、コーエン『世界の言語』や渡辺照宏『私の外国語』などを愛読書とする学生であ

った。このことは、先述の2つの論文名とその内容とともに、エスペラント学習と密接な関係にあったと思う。

1976年4月1日、兵庫県立高等学校社会科教員に採用され、多可高校に赴任したときには、エスペラント部を創設する意志はあったと記憶する。しかし、校務分掌として割り当てられた軟式庭球部の顧問としての活動と部落問題の研究と同和教育の実践に関わる部落問題研究部の指導に携わることになり、高校におけるエスペラント部の創設は、結果的に実現できないままに終わった。

1922年3月3日創立の全国水平社の機関誌『水平』のエスペラント名は、La Horizontalo であり、ヤクルトはヨーグルトのエスペラント名であり、後年西脇市に建設されたアピカホールのアピカは「垂直な」という意味であり、甥が結婚式場に使ったホテル Mia Via は、「私の、あなたの」という意味だと、巷のエスペラントの語句を見つけてはほくそ笑んだものだ。

1993年3月に西脇高校を最後に17年間勤務した教職を退職し、金蔵寺住職に就任した。エスペラントは何となしに続けていた。La Revuo Orienta、La Movado、La Harmonio もそう意識もなく取っていたので自然退会になっているのも気がつかなかった。

ウィンドウズ 95 の発売は画期的なものだった。田舎に引っ込んだ世界史教員が、かつての外国語を使用した研究を資料の所在の問題から断念し、仕方なくでもないが日本語による地域史研究に転向して久しかったが、インターネットの登場によって、研究分野を変更する必要は全くなかったことに気がついたものだ。

1999年、高野山真言宗金蔵山金蔵寺 Web サイトを創設した。日本語のページは当然としても、横文字のページには躊躇なくエスペラントを使った。各種のエスペラント団体のリンク集に取り上げられたのもいい思い出であり、現在も有効なサイトである。私の視覚障害進行のために2013年より更新しないままであるが、今となっては、その時点での金蔵寺の実情が察せられる貴重な歴史資料となっている。

自然退会扱いになっていた日本エスペラント学会に入会した。2度目の入会であった。

そして、今年2023年7月、多可町生涯学習講座短期講座前期で3回に渡って「大石順教尼に学ぶ」を講義し終わった。10月から始まる短期

講座後期に何を提案しようかと考えていたところ、「エスペラントはどうですか？」という家人の思いつきに乗ってしまった。

よく考えてみたら *La Revuo Orienta* をここ数年見ていないことに気づき、まともや自然退会の扱いになってしまったと思い、3 度目の入会、ただし、今度は、日本エスペラント協会入会となった次第である。

くだんの多可町生涯学習講座に受講申込みがあるかどうかは、成算があるわけではない。講座の担当者は平成生まれの 20 代、「エスペラント」そのものは聞いたこともなかったと言う。同課の再任用の 60 代は、金蔵寺の Web サイトを見ても分からなかったと言う。「いくら易しいと言っても言語ですからね」と思い、早速ネットなどを利用して初歩の初歩をメールした次第である。

最少開講人数は 8 名である。集まればいいし、集まらなくてもいいことはないが、仕方がないとも思う。

Ni semas kaj semas, neniam laciĝas, pri l' tempoj estontaj pensante.

*Cent semoj perdiĝas, mil semoj perdiĝas, –
ni semas kaj semas konstante.*

ザメンホフの顔は知っているが、聴いたこともないはずのない声が聞こえてきたような気がする。ありがたいことである。

以上、総ては懐かしい思い出である。そういえば思い出した。中学・高校時代の恩師に手紙を書いたこと。「私は、エスペラントという一生の課題であり、趣味を見つけました」

決して、終始一貫して熱心なエスペランティストであったとは言えないが、時折、着火し消火する気まぐれなエスペラント人生と言えるかも知れない。さて、今度はどうなるか、楽しみでもないが、適当に見たいものである。

(終)

PS 文中の多可町生涯学習講座「エスペラント入門」について、その後、受講申込みが最低開講人数を超えて 10 名に達し、オンラインハイブリッド形式でも受講が可能となった。

会員の訃報

わためき けんいちろう

★ 綿貫 健一郎さん

綿貫さんが7月28日に亡くなりました。享年64歳。(1959-07-17~2023-07-28)

綿貫さんは1981年にエスペラントを学び、1983年に東京RHに入会されました。1984年の第3回日韓青年エスペラントセミナー(KS)に参加。1984年の日中青年友好交流団に日本のエスペラント代表5人の1人として参加されました。

1989年にポーランド人エスペランティストの Aleksandra さんと結婚され、30年以上もエスペラントを日常語として使用されていました。

本誌231号(2012年2月)に「エスペラント生活の近況」、244号(2017年9月)に「ソウル世界大会雑感」、248号(2021年10月)に「人名のローマ字表記について」を投稿していただきました。いずれも次のページで読めます。

http://esperanto.jp/arkivo_harmonio.html

ご冥福をお祈りいたします。



綿貫健一郎さん
Facebookより

2023年のイベント

★ 第71回関西エスペラント大会

6月3日(土)~4日(日)、イーグレひめじ(兵庫県姫路市)で開催されました。参加申込者が166人で、うち実参加者は105人でした。

3日13:15~14:45の時間帯にエスペラント・ミニ大学(Esperanto-Universitateto)を分科会として開催しました。参加者は講師2人を含む10人程度でした。発表は次の2件です。両方ともエスペラントだけを使用。



1. Rimedoj kontraŭ elektra frapo (感電対策、講師 森川和徳)

本発表は、第96回日本エスペラント大会のミニ大学(2009年10月11日)で発表したものとほぼ同じ内容です。発表内容は本誌223号(2010年2月)に掲載済みです。

2. Vortordo (語順、講師 竹森 浩俊)

本号1頁の写真、10頁の記事をご覧ください。

★ 第108回世界エスペラント大会

7月29日(土)から8月5日(土)まで、イタリア・トリノのトリノ工科大学で開催されました。参加申込者は69か国から1318人でした。大会プログラムは充実しており、参加者は十分に楽しんだとのことでした。

本号13頁と20頁の記事をお読みください。



★ EPA (エスペラント普及会) 創立100周年記念行事

9月16日(土)～18日(月・祝)、大本本部(京都府亀岡市天恩郷)で開催され、海外から79人、国内から251人、計330人が参加しました。

17日16:00から1時間、ザメンホフ博士の曾孫 Margaret Zaleski-Zamenhof氏(医師)が「エスペラントとザメンホフ一家」というタイトルで講演されました。日本語通訳付きでした。この講演のビデオはYouTubeにて無料で閲覧できます。

★ 第22回中四国エスペラント大会

10月1日(日)、岡山国際交流センター(岡山市)で開催。実参加52人、うち大学生が9人、外国からの参加が4人。ズーム参加は14人。

大会は1日ですが、午前9時から午後4時までのプログラムは多彩で、大学生や若い人が発表されたのが特長でした。

中四国在住のRH会員の方、次回の中四国大会に是非参加されてはどうでしょうか。(福井政春)



★ 第 110 回日本エスペラント大会

期日：10月21日(土)～22日(日)

拠点会場：川崎市総合自治会館（神奈川県川崎市）

主催：一般財団法人日本エスペラント協会

協力：川崎エスペラント会

川崎市を拠点とし、実参加とオンラインのハイブリッド方式で開催



図書情報

★ 源氏物語のエスペラント訳

2020年6月に belmonto さん（やました としひろ、鹿児島県日置市）が“Rakontaro de Genĝi Parto I”（A5判、383頁）を発行されました。『源氏物語』の第1帖「桐壺」～第20帖「朝顔」のエスペラント訳です。

そして、今年8月・10月に続編の Parto II と III を発行されました。Parto II には第21帖「少女」～第33帖「藤裏葉」、Parto III には第34帖「若菜上」～第41帖「幻」が収録されています。

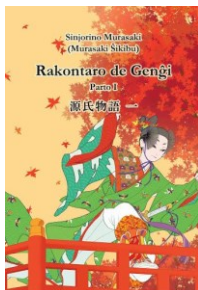
Parto II と III の販売は Amazon を利用し、Kindle 電子版とペーパーバックの2つの形式があります。

Parto II の Kindle 電子版は 580 頁、Parto III は 627 頁。Unlimited 会員は ¥0 で読み放題、購入は Parto II ・ Parto III とも ¥1100。

Parto II のペーパーバックは 357 頁、¥2701。Parto III は 398 頁、2750 円。送料は無料です。オンデマンドなので、注文があれば、すぐに印刷・発送されます。

ご興味のある方は、amazon.co.jp にて「源氏物語 rakontaro」で検索してください。

Parto I



Parto II



Parto III



2024 年のイベント

★ 第 72 回関西エスペラント大会

La 72a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

主催：京都エスペラント会

一般社団法人関西エスペラント連盟

期日：2024 年 6 月 29 日(土)～30 日(日)

会場：京都市国際交流会館

大会テーマ：共生こそ平和への道

Kunekzistado en reciproka estimo ja estas la vojo al paco

公開コンサート：あおい苑の皆さんのミュージックベル演奏と

野田淳子さんの歌唱

公開講演：弁護士 尾藤廣喜さん「世界と日本の貧困問題」

※この大会の実行委員会には RH 会員が数人参加しています。



★ 第 109 回世界エスペラント大会

La 109-a Universala Kongreso de Esperanto

期日：2024 年 8 月 3 日(土)～10 日(土)

開催都市：タンザニア・アルーシャ (Aruŝo)

ウェブ：<https://www.uea.org/kongresoj>

アフリカで初めての世界大会です。

アフリカでのエスペラント運動が注目されています。



★ 第 3 回日韓共同開催エスペラント大会

La 3-a Komuna Esperanto-Kongreso de Koreio kaj Japanio

期日：2024 年 10 月上旬予定

会場：韓国、全州 (チョンジュ)

※第 1 回日韓共同開催大会は 2011 年 10 月に韓国・城南市で、
第 2 回大会は 2018 年 10 月に日本の奈良市で開催されました。

<< 編集後記 >>

本号では、会員の近況を中心に、最近のエスペラント運動を紹介しています。

本号は、RH 運動に関係された約 300 人に郵送しています。このうち、100 人が 2022 年 RH 会費を納入済みです。

★ 次号発行日

次号 251 号は 2024 年 11 月を予定しています。2024 年 10 月末までに原稿を編集部（下記の森川）宛てお送りください。皆さまのご寄稿をお待ちしています。

★ 本誌 La Harmonio の PDF ファイル

213号（2007年9月）以降のPDFファイルを公開しています。

Arkivo de La Harmonio

http://esperanto.jp/arkivo_harmonio.html

La Harmonio 250 号 2023 年 10 月 20 日発行

編集発行 Rondo Harmonia（国際語教育協議会）

* 組織委員会書記局・La Harmonio 編集部・財務担当

〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎尻江 13-8 森川和徳

電子メール kz_morikawa@yahoo.co.jp

* ウェブサイト <http://esperanto.jp>

* RH 会費（会計年度 1月1日から12月31日まで）

◇RH 会員お一人の場合

維持会費 年 600 円

◇ご夫婦とも RH 会員の場合

維持会費+家族会費 年 900 円（600 円+300 円）

* 会費払込先

振替口座 01040-2-27937 加入者名「森川和徳」

楽天銀行 マーチ支店 普通預金 3302340 「森川和徳」